

エコひょうご

夏号

2014
Summer
No.72

地域の環境活動

多可町生活環境グループ ザ・ゴミゼローズ

企業訪問

神姫フードサービス株式会社 加西神姫レストラン

市町の取り組み

たつの市



寄稿

地域力で創る環境先導社会
“豊かで美しいひょうご”の実現に向けて

理事長就任のご挨拶

公益財団法人ひょうご環境創造協会 理事長 築谷 尚嗣



平素より当協会の運営につきまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会は、環境の保全と創造に資することを目的に、地球規模から地域レベルまで幅広い環境問題に対し、県民、NGO・NPO、事業者、行政とともに二元的・総合的に取り組み、次世代に継承する「環境適合型社会」の実現を目指しています。

今年度は、平成30年度までの5か年を計画期間とする中期経営計画を策定しようとしています。環境創造事業、循環型社会推進事業、環境調査・測定分析事業、環境研究事業、各事業の将来ビジョン実現に向けた取り組み、経営の安定化に向けた取り組みを定めるもので、これに基づき計画を着実に推進していきます。

また、ひょうごエコプラザを6月2日に神戸市須磨区の協会本部に移転しました。3月に開設した再生可能エネルギー相談支援

センターも含め、環境創造事業の多くを本部に集約し総合的に取り組むこととしていきます。さらに、本部内に環境技術センター棟（仮称）の整備が進んでおり、8月には、本部事務部門、環境技術部、兵庫県環境研究センターが移転します。この移転等により、各部門の連携を強化し、業務の効率化を図ってまいります。

昨年12月着工した尼崎沖フェニックス事業用地でのメガソーラー事業については、工事が順調に進んでおり、今年冬頃に約10メガワットの発電を開始する予定です。

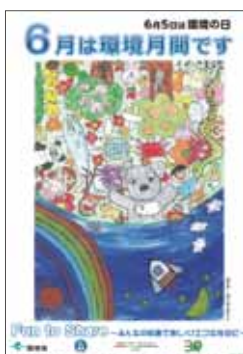
今年度は多くのことに取り組みますが、協会にとって非常に大事な年であり、ひとつひとつを着実に実施していかねばなりません。

これらの取り組みにより、さらに充実した環境保全活動を進めていきたいと考えていますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

6月は「環境月間」です

昭和47年6月5日にスウェーデンのストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、国連では6月5日を「世界環境デー」と定めています。

日本でも環境基本法(平成5年)において6月5日を「環境の日」と定め、この日を含む6月を「環境月間」として、全国各地で環境保全の重要性を認識し行動の契機とするためのさまざまな行事が行われます。



環境省提供



地域力で創る環境先導社会 ”豊かで美しいひょうご”の 実現に向けて



鈴木 胖（すずき ゆたか）

公益財団法人地球環境戦略研究機関関西研究センター所長、大阪大学名誉教授、姫路工業大学学長、兵庫県立大学副学長などを歴任、平成20年4月より現職、兵庫県環境審議会会長、当協会評議員長
1970年代初頭より地球温暖化関連問題の研究に取り組む

1 第4次兵庫県環境基本計画

地域の環境問題への対策は、1960年代から激化した公害問題への対策から半世紀が進み、現在では環境の保全・修復から新しい環境の創造へと視点が広がっています。そこでは豊かな自然を守り育てるために基本となる生物多様性の保存も重要な課題となっています。他方で顕在化しつつある地球温暖化問題は、人間活動の拡大が主因であり、資源多消費型社会を循環型社会に転換することが地域としても強く求められています。

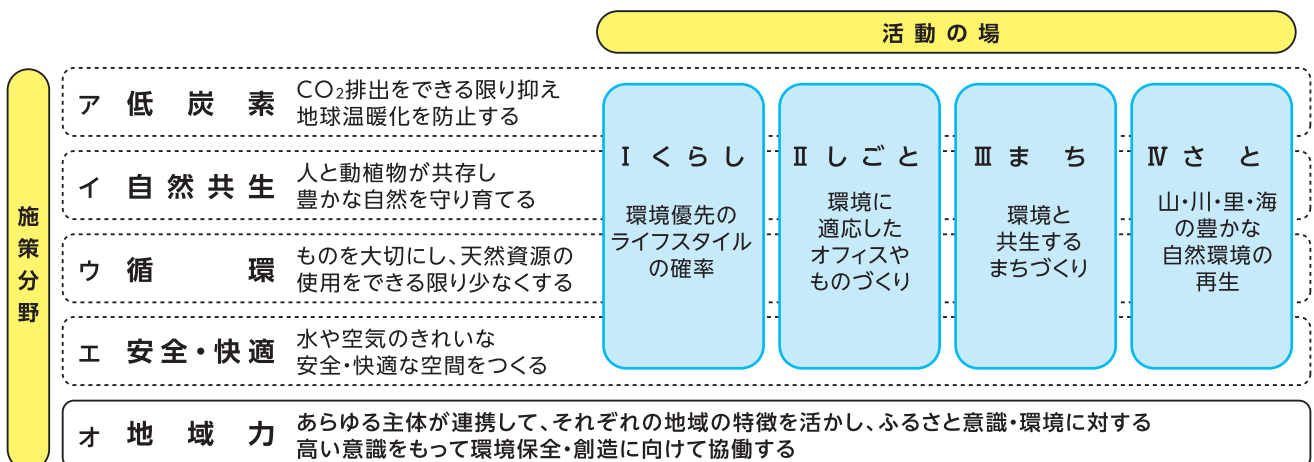
兵庫県には、温暖な瀬戸内海に面し人口が稠密で基幹産業が集積する神戸・阪神、播磨、急峻な断崖の多い日本海につながり自然豊かな但馬、両者の中間に位置し分水嶺が低く生物多様性豊かな農山村地域の丹波、瀬戸内海東部に位置する淡路島というように多様な環境・歴史・文化をもつ地域が存在しています。

第4次環境基本計画は、長期を展望しつつ、概ね10年間（平成35年度まで）を計画期間としています。計画では本県の地域特性を活かし、あらゆる主体（県民、地域団体・NPO、事業者、行政）がそれぞれの地域の魅力やふるさと意識を共有し、よりよい環境づくりに向けて取り組むことを「地域力」と名付けています。そして多様な「地域力」

による環境の保全や創造への取り組みが、社会のあり方や仕組みを先導し変えていく「環境先導社会」をつくり、「豊かで美しいひょうご」を実現することを目指しています。

2 計画の特徴と環境の将来像

本計画では、県民をはじめとする各主体が環境施策に沿った活動をどのように展開していくのかを分かりやすく示すため、活動の場として「くらし」「しごと」「まち」「さと」の4つの場を設定し、その場ごとに施策の内容を「低炭素」「自然共生」「循環」「安全・快適」の4つの環境分野に分けて示しています。



▲図1 施策分野と活動の場の関係

図のデータ元／第4次兵庫県環境計画(P36) <http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/keikaku>

4つの環境分野ごとに施策展開のめざす環境の将来像を以下のように描いています。

低炭素

- (1) 日常生活や経済活動において、省エネ型ライフスタイルの定着とあわせ、温室効果ガスの排出の少ない仕組みが浸透している。
- (2) 再生可能エネルギーが地域特性に応じて大量に導入され、エネルギー需給に主要な役割を果たしている。
- (3) 森林の整備が進み、CO₂の吸収源としての機能が強化されている。
- (4) 交通・移動手段や建築物などの低炭

素化により、環境と共生するまちづくりが進んでいる。

自然共生

- (1) 「生物多様性ひょうご戦略」の推進により、生物多様性保全に対する県民の意識が高まり、豊かな生態系が保たれている(図2参照)。
- (2) 野生動物の適正な捕獲・管理が行われ、人と野生動物が共生している。
- (3) さまざまな担い手により、里地・里山・里海が適切に管理され、健全に水や物質が循環する豊かな自然が保全・再生されている。
- (4) 人と自然とのふれあいの場が充実

し、身近に自然の豊かさを感じるこ
とができる。

循環

- (1) 天然資源への依存度の少ない生活や経済活動が進み、廃棄物の発生が少ない社会システムが確立している。
- (2) 発生した廃棄物も、資源やエネルギーとして回収され、再利用されるリサイクルシステムが構築されている。
- (3) 地域で発生したバイオマス資源が地域の中で地産地消される地域循環圏が構築されている。
- (4) やむを得ず発生した廃棄物が適正に処理され、安全かつ確実に最終処分されている。

安全・快適

- (1) 水や空気がきれいで、快適な生活環境が確保されるとともに、行政等から適切に情報が提供され安心して暮らすことができる。
- (2) 県民自らが環境の美化に取り組み、ごみが捨てられていない美しい環境が確保されている。
- (3) 化学物質等のリスクについて調査・研究が進み、人の健康や環境へ及ぼす影響の未然防止対策が進むとともに、迅速な情報提供の体制が整っている。

(4) 自然災害に備えた安全・安心な生活環境づくりのための整備が進んでいる。

3 「くらし」の場における 具体的取組

「エ」ひょうご「本夏号」では、「くらし」をテーマにしています。4つの活動の場のうち、とくに「くらし」の場における具体的取組を環境分野ごとに示します。県民のみなさんが日々の暮らしの中で心掛けて環境に配慮した取り組みをされることが豊かで美しいひょうごの実現にそのままつながります。

低炭素

① CO₂ 排出の少ないライフスタイルへの転換

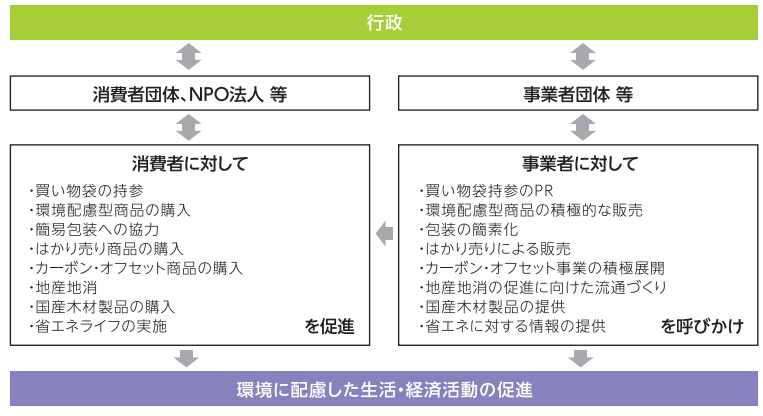
- 冷暖房温度の適正化やエコドライブといった節電・省エネ行動の推進
- 削減努力をしても避けられないCO₂の排出について、他の削減行動に投資するなどによりCO₂の相殺を行う「カーボン・オフセット」への取組推進
- 住まいの省エネ化・省エネ機器購入の促進、家庭のCO₂排出量を「見える化」してライフスタイルに応じた削減対策を個別に提案する「うちエ「診断」の推進



▲図2 多様な気候・地形による生物多様性の宝庫
 (「生物多様性ひょうご戦略(平成21年3月)」P2より)
 ● 中国山地を中心に形成される起伏に富んだ地形
 ● 中国山地から北の日本海型、山間部の内陸型、南の瀬戸内海型の多様な気候
 ● 本州で最も低い標高(95.4m)の「水切れ」がもたらす生物間交流(水上回廊)
<http://www.kankyo.pref.hyogo.jp/JPN/apr/keikaku>

- 公共交通機関の利用促進
- 県産農林水産物の消費を促進し輸送に伴う温室効果ガスの排出(フードマイレージ)抑制に配慮した買い物の推進

● 環境負荷低減に資する製品・サービスの購入(グリーン購入)の推進



▲図3 兵庫県連合婦人会、兵庫県消費者団体連絡協議会、神戸市消費者協会の3団体が中心の「地球環境時代! 新しいライフスタイルを展開しよう~新しいライフスタイル委員会」及び兵庫県が協働して実施した平成25年度キャンペーンの内容

- ②再生可能エネルギーの導入拡大
 - 住宅用太陽光発電の導入拡大、ペレットストーブ等バイオマスの利活用促進
 - 廃食用油等から精製するバイオディーゼル燃料を有効活用する取り組みを進め廃棄物の削減と地球温暖化対策を両立して推進

- ①地域の自然環境から学ぶ環境学習・教育の推進
 - 幼児期、学齢期、成人期それぞれのライフステージに応じた環境学習・教育の推進
 - 地域の自然体験や社会体験など、体験を重視した環境学習・教育の場や学習機会の提供
 - 地域に関心を持ち、身近な自然や文化に触れ、体験を通して学ぶ機会を増やすことができるよう、エコツーリズムを推進、「エコツーリズム」の運行を支援

● ①くらしにおけるごみの減量化の促進

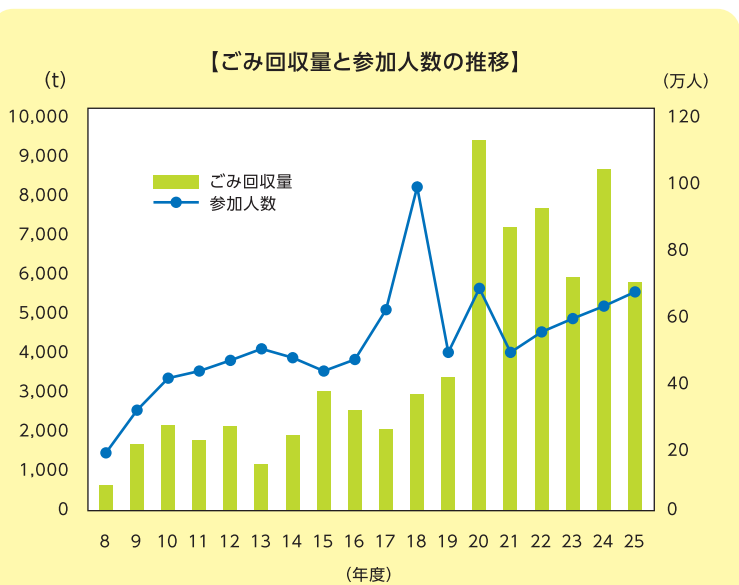
- 分別収集等、生活ごみ減量化の推進
- 県民・事業者・行政の参画のもと県民誰もが実施可能なレジ袋削減の推進
- グリーン購入による環境配慮商品の利用拡大

- 3R (Reduce, Reuse, Recycle) に配慮した生活・事業活動におけるごみの減量化の促進
- ②循環型社会の担い手づくり
 - 学校や地域における循環型社会の構築に向けた環境学習・教育の展開

● 安全・快適

- ①県民参加による安全・安心な生活環境づくりの推進
 - 「グリーンアップひょうごキャンペーン」等による身近な環境美化活動の実施

- 地域住民やボランティア等の参画による地域の身近な生活空間の保全・創造に関する活動への参画、住民参画型里山林整備、災害に強い森づくりやバッファゾーン整備への参画



【平成25年度クリーンアップひょうごキャンペーン実施結果】

	参加人数	ごみ回収量
市町・県民局・協力団体等 計	531,538人	2,857トン
小学校・中学校・高等学校 特別支援学校 計	137,377人	2,922トン
総 計	668,915人	5,779トン

▲図4 「平成25年度クリーンアップひょうごキャンペーン報告書」より平成7年の阪神・淡路大震災をきっかけにはじまった「クリーンアップひょうごキャンペーン」のこれまでの実施結果



設立20年、“目で見てわかる環境啓発”に取り組む

今では「ゴミゼローズ」と親しまれるまでに

「多可町生活環境グループ ザ・ゴミゼローズ」は、平成6年のゴミゼローズの日(5月30日)に設立されました。メンバーは、生涯学習機関・中町生活創造大学(現多可町生活創造大学)で環境科に在籍していた22名でスタート。環境学習を進める中で、町内の不法投棄の現状を知ったことがきっかけです。

まずは、月一回定期的に国道や県道などのごみ拾い、草刈りや花壇の設置・手入れから始めました。“できるときに、できることを、できる範囲で”をモットーに地道に活動を継続してきました。

「難しいことをやっても長続きしません。ごみをひろう、という簡単なことだから続けられたと思います。続けられたからこそ『中区はごみがおつてないな』と言われるまでになりました」とザ・ゴミゼローズ真鍋成之代表。「ゴミゼローズ」の活動もあってか町も次第に積極的に動き、不法投棄看板や監視カメラの設置や環境啓発車なども稼働。ほんとうに「ゴミゼローズ」のまちに近づいていきました。

「環境落語寄席」などアイデアあふれる啓発活動

しかし、簡単な活動だけではマンネリ化の



今年5月の開催で13回目となる「環境落語寄席」。省エネを考え冷暖房のいらない春や秋に開催されています。



赤穂浪士や茶摘み女の扮装で街頭キャンペーンも話題になりました。



月一回の清掃美化活動は、平成25年度環境保全功労者知事表彰を受賞しました。



恐れもあります。そこで、メンバーのモチベーションアップも兼ねて、毎回お茶摘み姿、大原女、赤穂浪士、サンタクロースなどさまざまな扮装で不法投棄禁止などの街頭キャンペーンも展開されました。

平成12年には、「全国ゴミ袋展」を開催。北海道から沖縄まで全国各地の自治体のご協力で、各行政指定の有料ごみ袋約600枚を集めて展示しました。当時ごみ袋がまだ有料化されていない市町村も多かったため、大きな反響を呼びました。名前記入欄のあるもの、分別内容に応じて色分けされたものなどさまざまで、真鍋さんによると、ごみ袋を有料化している地域は明らかにごみの排出量も減っているそうです。

毎回多可町文化会館をいっばいにする環境落語寄席もザ・ゴミゼローズの主催です。落語家のみなさんも、ごみや環境にまつわる話を枕に啓発に役立ち、来場者が楽しみながら「ごみ環境」を身近に考える機会となりました。

平成23年度国土交通大臣感謝状や、平成25年度環境保全功労者知事表彰(兵庫県)など、多くの賞を受賞してきた「ゴミゼローズ」も今年設立20年目を迎えました。活動開始当初とは違い、「環境への配慮」は当たり前という時代になった今、「ゴミゼローズ」も原点に戻り、今後は派手な啓発よりも地味ながら清掃活動を続けていきたい、とのこと。

「ゴミゼローズ」の20年間のご努力と、今後の活躍にエールを送りたいですね。



企業訪問

神姫フードサービス株式会社 加西神姫レストラン

食品残渣から有機肥料～野菜栽培～調理提供へ

食材のリサイクルループ確立に取り組む



兵庫県立播磨農業高校の農園で再生有機肥料は野菜づくりに使用されています。

お盆や年末年始、ゴールデンウィークには帰省やレジャーで大変な渋滞となる高速道路。混雑時は1日に約1万1千人の人が利用する中国自動車道・加西サービスエリア(上り線)でも大量の食品残渣の低減が重要課題になっています。

飲食業界では県内で初めて「エコアクション21」の認証取得

加西神姫レストランは、2009年に本社とともに「エコアクション21」の認証を取得。中心店舗となる「とんかつうどん『官兵衛』」やスナックコーナーから出る食品残渣(残飯生ごみ)など一般廃棄物排出量やエネルギー使用量の削減、リサイクル率向上に積極的に取り組まれています。

2010年にはバイオ式の生ごみ処理機を導入し、月に1.2t発生する食品残渣が約200kgの再生有機肥料となりました。その結果、加西神姫レストランの一般廃棄物排出量は2012年度約20%削減(2009年度比)。昨年から再生有機肥料のすべてを、近くの兵庫県立播磨農業高校に無償提供する協定を締結し、高校の農場でキャベツや大根、トマトの栽培に使用されています。収穫された野菜は、再び加西神姫レストランに、地産地消食材として調理提供されます。

「逆」に注意されるくらいになりました」と同レストランの田孝副支配人。削減量を棒グラフで「見える化」することで、徐々に組みみ意欲も高まってきたそうです。また、食品残渣そのものを減らすために、ABC分析*で「一番残ってくるメニューの変更や、とんかつのキャベツも盛付を控え目にし、お代わり自由にするなどの、残されない工夫」も重要だそうです。

積極的な取り組みが評価され「環境にやさしい事業者賞」優秀賞受賞

また、お米は玄米を仕入れて精米し、精米後にできる米糠は播磨農高で鶏の飼料や一部肥料とします。スナックコーナーで使う割り箸は回収分別後に製紙会社でパルプ原料となり、また廃油は廃油精製設備をもつ障害者施設でバイオディーゼル燃料にリサイクル

ルされます。



兵庫県立播磨農業高校の生徒さん。授業の一環で、サービスエリアで産みだすの卵や野菜の販売実習など交流も深まっています。

バイオ式の生ごみ処理機は、他のサービスエリアの店舗でも導入の計画があります。



これらの取り組みが評価され、「第23回環境にやさしい事業者賞」優秀賞受賞となりました。今後もリサイクルループをベースとして、人々が交流し四季折々の地域の産物が店に並び、地域を大事にする店づくりが目されます。

*ABC分析：管理する対象を重要度によってABCのグループに分け、それぞれの特性に応じた管理方式を実施するために行われる分析。

神姫フードサービス株式会社 加西神姫レストラン

たつの市

童謡「赤とんぼ」の作詞者・三木露風生誕の地のほか、江戸期の竹まいが残る城下町龍野、海駅の要衝室津として知られ、醤油や素麺など名高い物産も数多い。近年は大型放射光施設「SPring-8」など先端科学施設が次々と誕生している。



人口/79,637人 世帯数/29,721世帯
面積/210.93km² (2014年3月末現在)



▲(左上・右上)こどもエコクラブでは、小学校4年生から6年生を対象に、揖保川、新舞子浜など豊かな自然環境を利用して環境学習を実施。(左下)環境啓発を目的に導入された電気自動車。紹介しているのはたつの市イメージキャラクターの「赤とんぼくん」。(右下)地球温暖化防止啓発ポスターを募り、優秀作品が表彰されました。

市民、事業者、市が 一体となった取り組みを目指す

小学生がごみ出しチェックで
家族と「分別」を学ぶ

たつの市では、今年3月に「たつの市環境基本計画」の改定を実施。市民、事業者、市が一体となった、これまで以上に実効性のある取り組みを目指されています。

たとえば、「ごみゼロたつの推進事業」は、市民全体での取り組みを目指して、「小学生の部」「事業所の部」「地域の部」の3つに分かれています。「小学生の部」では、小学生が夏休み期間中、「ごみステーション」での立ち当番に参加し、どれくらいごみが出るのか、分別できているのかを学習します。たつの市の小学校4年から6年生の児童約2000名が参加。参加するたびに地域の方からカードにスタンプを押してもらいます。カードの感想欄には、「祖父母に分別を教えた」、「兄弟と協力して分別した」、「お父さんお母さんとクイズを出し合っごみの種類を覚えた」などの記載がありました。家庭での話し合いのきっかけにもなり、子どもたちだけでなく、家族ぐる

みでの資源ごみの分別啓発につながっていることがうかがえます。

また、「事業所の部」では、ごみ減量化、リサイクル、清掃活動等についての事業所での優秀な取り組み、「地域の部」では、一般家庭から出るごみ減量化等についての地域団体での優秀な取り組みを市が表彰、公表し、自分たちにできる方法で取り組んでいただくよう啓発しています。

平成21年度から開始された生ごみの堆肥化や水切り等の実証実験事業も、意欲的な取り組みのひとつです。可燃ごみの約40%を占める生ごみ、その約80%は水分です。今年度からは実践事業として、「水切り」と「EMボカシ」の作り方や使い方を広く啓発し、生ごみの減量化、堆肥化を更に進めていきます。

環境美化担当の黒田課長補佐は、「当初は、EMボカシといってもほとんど知られていませんでしたが、ようやく周知されてきました。やはり継続して啓発することが重要と思われまます。」

こうした取り組みも寄与して、平成25年度に、たつの市の家庭から出た普通ごみ量は、平成20年度比約5%削減

されるなど、効果もあらわれているようです。

創エネルギー・省エネルギーの 取り組みも支援

同市では、従来の住宅用太陽光発電システムの設置費用の一部補助について、今年度から小水力発電や小型風力発電、地中熱利用システム、住宅用蓄電池(太陽光発電システムと系統連系しているもの)にも拡大。個人だけでなく、自治会等にも対象範囲を広げています。また、「うちエ」診断」を昨年度は市職員から受診。今年度は市民への受診を推進していく計画です」と同課の前田副主幹。全市「丸」になった積極的参加に向けて、着実に活動の輪が広がっています。

*EMボカシ：EM菌(有用微生物群)を米ぬかなどに混ぜて発酵熟成させ、バクテリア等を大量に増殖させた粉のこと。



▲ごみ出しの際注意すべきチェック項目もかなり綿密です。



大気汚染防止法の改正

—アスベスト対策の強化—

環境技術部 分析技術課

アスベストは、その耐熱性に優れる特性から、建築物における防火剤・耐火材としてこれまで大量に用いられてきましたが、肺ガンを引き起こすなど、人体に及ぼす有害性のために、現在では、輸入・製造の禁止はもちろんのこと、全面的に使用禁止となっています。しかし、これまで使用されてきたアスベストの約9割は建材製品として普及し、建築物の天井・壁などに残されています。

今後、建築物の建て替えに伴い、アスベスト使用の可能性のある建築物の解体工事が増えていきますが、特に、昭和31年から平成18年に施工された、アスベスト使用の可能性が比較的高い、鉄筋・鉄骨造りの建築物の解体等工事が、平成40年頃をピークに、全国的に増加することが見込まれています。

ここでは、解体工事に係るアスベストの規制について、平成25年6月21日に改正・公布され、平成26年6月1日に施行された大気汚染防止法の改正内容をご紹介します。



▲屋根用折版断熱材(折版屋根裏)

大気汚染防止法の主な改正ポイント

■解体等工事における届出等手続きの見直し—工事発注者の義務の拡大—

- アスベストを含有する『特定建築材料*』が用いられた建築物等の解体等工事については、届出等の手続きが改められました。改正前の手続きでは、工事の施工者が届出義務者でしたが、改正後は『工事の発注者』又は『自主施工者』が届出を行うことが義務づけられました。

【作業の届出について】

アスベストを使用している建築物や事業場のプラントなどの工作物を解体する場合、**工事の発注者又は自主施工者**は、作業の場所、作業期間、作業の方法などについて、作業開始の14日前までに都道府県・政令市所管窓口に**届出が義務づけられました**。

■解体等工事の事前調査及び説明の義務づけ

- 解体等工事の受注者は、アスベスト使用の有無について事前に調査をし、発注者へ調査結果を書面で説明することが義務づけられました。
- 事前調査結果は、解体等工事の場所へ掲示することが義務づけられました。

■立入検査等の対象の拡大

- 届出がない場合を含めた解体等工事の発注者、受注者等が、都道府県知事等による報告徴収の対象に加えられました。
- 解体等工事に係る建築物等が立入検査の対象に加えられました。

*特定建築材料：吹き付け材、断熱材、保温材、耐火被覆材のうち、アスベストを意図的に含有させたもの、又はアスベストが質量の0.1%を超えて含まれているもの。

(公財)ひょうご環境創造協会 環境技術部によるアスベスト分析 Tel.078-735-2776

建材製品中のアスベストの含有率測定では、『含有率0.1%の有無を判断』するところからスタートします。当協会では、平成26年3月28日付で新たに公示されたJIS A 1481-1～1481-3に対応した定性・定量分析を承っております。解体作業時に必要となる事前調査や、気中アスベスト濃度の測定分析業務も承っております。どうぞご相談下さい。

協会情報



兵庫県地球温暖化防止活動推進センター

「うちエコ診断」における 行動変容

当協会では、家庭のCO₂削減対策として「うちエコ診断」を実施しています。

これまで、各市町、企業、団体、県民の皆様にご協力いただき、

兵庫県の家庭におけるCO₂削減を目指してまいりました。

平成25年度(平成25年4月～平成26年1月)の

「うちエコ診断」件数は653件でした。

そのうち335名の方に、受診3か月後の取り組み状況についてアンケートにご協力いただきました。

「うちエコ診断」受診後、皆さんがどのような行動をとられたのか、ご紹介させていただきます。

「うちエコ診断」受診後の「買い替え対策」

第1位 節水シャワーヘッド(手元止水型を含む)を
取り付けた

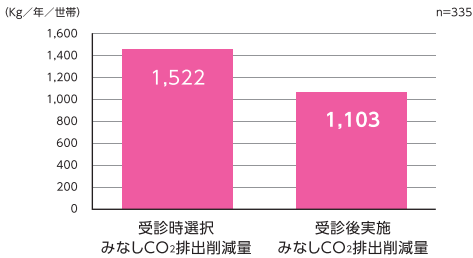
第2位 冷蔵庫を省エネ型に買い替えた

第3位 車を燃費のいい車に買い替えた

やはり手軽な買い替えが1位！しかし、冷蔵庫や車の買い替え等、高めの支出をしても消費電力の削減、CO₂の削減、使用料金の削減が見込めるのなら、これを機会に！と思いきった方も多いようです。

▼兵庫県におけるうちエコ診断受診一世帯あたりの みなしCO₂排出削減量*

「うちエコ診断」受診後の取り組みにより、アンケート回答者(335名)全体でのみなしCO₂排出削減量は1年間で369,506kgとなりました。一世帯あたりで見ると、みなしCO₂排出削減量は1,103kgとなります。「うちエコ診断」受診によりCO₂の削減効果が出ています。



「うちエコ診断」とは？

うちエコ診断資格試験運営事務局が認定したうちエコ診断士が、ご家庭の電気やガスの使用状況などをもとに、専用ソフトを用いて対面で診断します。家庭の「どこから」「どれだけ」CO₂が排出されているのかをわかりやすく示し、ご家庭のライフスタイルに合わせた削減プランをご提案します。

*みなしCO₂排出削減量: うちエコ診断受診時に「実施する」と選択した対策、及び受診後のアンケート調査で実際に「実施した」と回答のあった対策を受診者が実施したとみなし、そのみなした対策のCO₂排出削減量を算出したもの。

新商品 **Cada** SINCE 誕生

SMART&WELLNESS

大空間・大開口の明るい住まい。
60年保証の安心な住まい。
光熱費0円の夢を叶える住まい。

スマートハウスはトヨタホーム

展示場 西神中央展示場
神戸市西区高塚台5-13(西神中央総合住宅公園内)
0120-498-069

展示場 西宮展示場
西宮市高松町2-33(西宮北口ウイング内)
0120-373-327

建売分譲 ハートウッドの森ウェルカムプラザ
神戸市西区井吹台東町6-27-54
0120-935-812

建売分譲 ひよどり台販売センター
神戸市北区ひよどり台南町3-7-10
0120-556-618

「うちエコ診断」受診後の 「ライフスタイルの対策」

自動車分野

- エコドライブを心がける
- カーエアコンの温度と風量をこまめに調整する
- 1日10分間のアイドリングストップをする



給湯分野

- シャワーを使う時間を短くする
- 給湯器を節約モードにする
- 家族が続けて入り風呂の追い炊きをしない

暖房分野

- 暖房の設定温度を控えめにする
- 暖房の使用時間を短縮する
- エアコンを使用しないシーズンはコンセントからプラグを抜く

その他

- コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす
- 冷蔵庫の設定を「弱」にする
- 扇風機を使いエアコンの使用時間を3割減らす
- 照明を点ける時間を短くする
- 電気ポットで保温しない



お財布にも環境にもやさしい!
「うちエコ診断」してみませんか。

診断は無料です。お気軽に下記までお問合せ下さい。

【診断日時】ご希望の日程で調整します。(土日祝もOK)

【所要時間】45分～60分

【受診方法】以下の方法よりお選びいただけます。

- 訪問診断…ご自宅に訪問して実施
- 窓口診断…当センター(神戸市須磨区)で実施
- 会場診断…お近くの市役所、公民館などの会場で実施
- 団体診断…企業や団体等の方を対象に各施設で実施

申込先 / 兵庫県地球温暖化防止活動推進センター
神戸市須磨区行平町3丁目1番31号
Tel.078-735-4100 Fax.078-735-7222
E-mail: uchi-eco@eco-hyogo.jp

【出典】平成25年度家庭エコ診断推進基盤整備事業に係る地域別家庭エコ診断試行実施業務(兵庫県)報告書より

受診者の声

★CO₂削減量

や年間負担額が数字として把握できるので分かりやすい。



★具体的な削減シミュレーションが見えるので実感があります。さらに経費予測までしてもらえるので、取り組める部分を自分で判断できます。

★「ここを変えたらこれだけお得になる」と金額が出てくるので家計の見直しになります。

★商品の勧誘なども一切ないため、安心して受診することができました。

★知らなかった節約方法など教えていただいたので、実践していると思います。

循環型社会推進への貢献

www.toyo3.jp 東洋コンテナ商事 検索

資源回収用BOX (コンテナ)

を製造しています。

事業紹介

脱着用コンテナ製造・修理 ※各メーカー対応可能
ミニコンテナ製造・修理 / トラックボディ・ダンプ架装・修理
特殊鋼取り扱い(スウェーデン鋼・ステンレス・アルミ等)
中古トラック販売 / 各種板金・塗装 / PCB 専用器製造

お問い合わせ・お見積・修理のご依頼は
TEL: 078-939-3290

Take the Orient
for the Orientals

株式会社
東洋コンテナ商事

兵庫の貴重な自然 「兵庫県版レッドデータブック2014(貝類・その他無脊椎動物)」 発売中!

兵庫県では、平成15年のレッドデータブック改訂以降、新たな生物情報の蓄積が進んできたことから、絶滅の危機にある野生生物、地形、地質、自然景観などを保全し、生物多様性を確保するため、「生物多様性ひょうご戦略」に基づき、平成21年度からレッドデータブックを分類ごとに順次改訂をしています。

平成25年度は貝類・その他無脊椎動物について改訂を行い、「兵庫県版レッドデータブック2014(貝類・その他無脊椎動物)」が完成しました。

生物多様性保全の基礎資料として、公共工事等自然改変を伴う事業実施の際の参考資料として幅広くご活用ください。

【頒 価】ひょうご環境創造協会 会 員 1,500円(送料別)
非会員 2,500円(送料別)

【購入方法】・協会での直接購入
・ホームページ(<http://www.eco-hyogo.jp>)、FAX、郵送でのお申し込み

【支払方法】お申込みいただきましたら、請求書(送料込み)を送付いたしますので、代金先払いをお願いいたします。ご入金を確認後、図書を発送致します。

問い合わせ先／環境創造部 環境創造課 Tel.078-735-2738 Fax.078-735-2292



「クリーンアップひょうごキャンペーン」 がスタート!

今年も「クリーンアップひょうごキャンペーン」が始まりました。

“ごみゼロの日”である5月30日から7月31日までの2か月間、県下全域にわたって環境美化運動を展開します。

ごみのない美しいまちへ・・・「クリーンアップひょうごキャンペーン」にご協力ください。

問い合わせ先／資源循環部 循環推進課
Tel.078-360-1308 Fax.078-360-1338

株式会社伊藤園様から ご寄附をいただきました

平成26年3月、株式会社伊藤園様から「生物多様性ひょうご基金」に寄附をいただきました。この寄附は、兵庫県が選定した「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」に助成し、生物多様性の保全・再生活動に役立てさせていただきます。

▶左側から、(株)伊藤園小林常務取締役、兵庫県井戸知事、当協会富岡理事長(平成26年3月現在)



地球環境保護のため、この印刷物はFSC®認証紙および植物油インキを使用しています。また、有害物質を使用しない水なし印刷方式で印刷しています。

